

	くまこうげんちょう 久万高原町		〒791-1201 上浮穴郡久万高原町久万212番地	電話 番号	(0892) 21-1111
	地域 指定	過疎 山振 農工 辺地(6) 特農 農振 国定公園 県立公園		FAX	(0892) 21-2860 (代表)

<http://www.kumakogen.jp/>

〈沿革〉

平16. 8. 1 町制施行 (久万町・面河村・美川村・柳谷村 合併)
--

〈市町のあらまし〉

愛媛県のほぼ中央部に位置し、旧久万町・面河村・美川村・柳谷村の4か町村が2004年8月に合併した高原のまちです。県都松山市から国道33号で約30kmの地点にあり、総面積は584km ² 、標高1000mを超える四国山地に囲まれた山間の地域で、土佐湾へ流れ込む仁淀川から分岐した、面河川、久万川が縦走する水源地域である。 快適な高原リゾートの機能や農林資源が「住む」「働く」「遊ぶ」「憩う」といった人々の生活と調和したまちづくりをめざしている。

〈由来〉

当地域は、久万郷として栄えてきた歴史があり、農林産物にも久万高原産などの名称が使われてきており、歴史・自然環境と産業、「ひと」「里」「森」が調和する「まち」の創造をさわやかに表現している名称である。

〈庁舎の建設年度〉

建築年度	増 改 築	主な増改築箇所
昭38年度	平21年度	耐震補強・その他改修工事

〈行政組織〉

(令和 6. 10. 3現在)

議 会 (令和 6. 4. 1現在)

職員数 (令和 6. 4. 1現在)

区 分	名 前	任 期	議長	玉井 春鬼	副議長	岡部 史夫	普通会計	217人
町 長	こうの 河野 たけやす 忠康	令和10. 9. 11	議員	(条例定数)	13人		企業会計	96人
				(現 員)	13人		その他会計	10人
副町長	きたう 佐藤 のりあき 理昭	令和10. 10. 2	任期	令和7. 4. 23			計	323人

(教育長を含まない)

〈人口・世帯数〉

()は増減率

区 分	平7国調	平12国調	平17国調	平22国調	平27国調	令2国調	令6. 1. 1住基
人 口	(△4.0%) 12,781	(△7.0%) 11,887	(△7.9%) 10,946	(△11.9%) 9,644	(△12.4%) 8,447	(△12.4%) 7,404	7,145
男	6,022	5,610	5,109	4,498	3,957	3,513	3,443
女	6,759	6,277	5,837	5,146	4,490	3,891	3,702
世帯数	5,277	5,146	4,891	4,468	4,052	3,638	3,992

年齢構成（令2国調）

区 分	14歳以下	15歳以上64歳以下	65歳以上
人 口	551 人	3,110 人	3,655 人
構成比	7.4 %	42.0 %	49.4 %

選挙人名簿
登録者数（令和6.9.1現在）

男	3,052 人
女	3,301 人
計	6,353 人

上浮穴郡

〈土地利用〉

（令和2.2.1現在）(ha. %)

総面積 令6.7.1 (km ²)	林野面積	林野率		経営耕地面積			宅地化率 令5.1.1
				田	畑	樹園地	
583.69	52,126	89.3	463	330	120	13	0.9

〈産 業〉 産業構造

（百万円・人）

区 分	総生産額(令3年度)		就業人口(令2国調)	
第1次	3,054	10.8 %	936	27.1 %
第2次	5,574	19.8 %	483	14.0 %
第3次	19,578	69.4 %	2,040	59.0 %
計	28,206	100.0 %	3,459	100.0 %

(注)「総生産額」の計欄は帰属利子の控除等を行っており、「就業人口」の計欄は分類不能の人数を含む。

主要製造業（令3年）

（百万円）

所得（令3年度）

品 名	製造品出荷額等
木材	1,506
窯業・土石	574

1人当たり 市町民所得	2,276 千円
----------------	----------

令和5年度の主な建設事業

（百万円） 今後の主な建設事業

（百万円）

事 業 名	事 業 費	事 業 名	事 業 費
し尿等中継施設整備工事(し尿処理施設整備事業)	160	し尿処理施設整備事業	417
社会資本整備総合交付金事業(町道上野尻線改良工事)	41	社会資本整備総合交付金事業(町道上野尻線改良工事)	121
社会資本整備総合交付金事業(町道櫻柳西線改良工事)	32	社会資本整備総合交付金事業(町道櫻柳西線改良工事)	29
地方創生道整備推進交付金事業(町道四国カス高原線改築工事)	30	地方創生道整備推進交付金事業(町道四国カス高原線改築工事)	10
面河アウトドアセンター建設事業	79	道路メンテナンス事業(町道橋梁補修工事)	60
農業農村整備事業(和田ノ窪地区頭首工整備工事)	63	林道平サコ線虹鶴橋PCB対応工事	50
公共土木施設災害復旧事業(町道大日線すべり災害復旧工事)	31	住安住宅外壁等改修工事	46
御三戸第2団地外壁等改修工事	31	道路メンテナンス事業(関門第1トンネル補修工事)	40
久万中学校体育館雨漏り等改修工事	27	社会資本整備総合交付金事業(町道父二峰参川線改築工事)	30
町道橋梁補修工事(大屋敷橋、1153橋)	8	R5梅雨前線豪雨災害復旧工事	25

(観光・レクリエーション)

名勝旧跡 観光施設	石鎚山 面河溪 四国カルスト県立自然公園(古岩屋・五段高原・大川嶺) 皿ヶ峰連峰県立自然公園 幽谷上人 仰西渠 海岸山岩屋寺 菅生山大宝寺 特別天然記念物八釜の甕穴群 天然記念物伊予だけ自生地 ヒメボタル群生地 ふるさと旅行村 三坂峠 久万美術館 スキー場 久万高原天体観測館 面河山岳博物館 物産館みどり 上黒岩岩陰遺跡 農業公園アグリピア 道の駅みかわ 御三戸緑 面河ダム 赤蔵ヶ池 道の駅「天空の郷さんさん」 まちなか交流館
祭 り 催 し 物	久万納涼まつり(8月) 御用木まつり(8月) みかわ納涼まつり(8月) 石鎚山ヒルクライム(9月) 久万林業まつり(10月) 久万高原マラソン大会(10月) 秋の収穫祭(10月) 秋まつり(11月) 面河ふるさとまつり(11月) 町長杯ラグビーフットボール大会(3月) くままちひなまつり(2～3月)
公 営 宿泊施設	

(名物・特産品)

万寿 茶 ししいけ はったい粉 りんご 久万銘木 山菜五色煮 ヨモギ粉 杉 桧 天然わさび酢漬
さしみコンニャク 手のべうどん 大根 あゆ アメノウオ 美川手延べそうめん あまごの甘露煮 トウフの梅漬
合格破魔漬(合格キップ) 夏秋トマト 夏秋ピーマン 久万高原清流米

(主な公共施設)

町民館 町立病院 診療所 ふるさと旅行村 運動公園 海洋センター 保健センター 久万美術館 産業文化会館
物産館みどり 久万高原天体観測館 ラグビー場 屋内ゲートボール場 図書館 老人保健施設あけぼの
農業公園アグリピア 面河山岳博物館 国民宿舎「古岩屋荘」 溪泉亭 おもごふるさとの駅 上黒岩遺跡考古館
道の駅みかわ やなだにさんさんドーム ふるさと創造の館こかげ 林業研修センター 養護老人ホームささゆり荘
農村環境改善センター 姫鶴荘 姫鶴牧場 道の駅「天空の郷さんさん」 まちなか交流館

(主要課題)

- 魅力あふれる産業づくり(産業)
農家数の減少と高齢化、中山間地域特有の深い谷間の傾斜地を開いた棚田畑も多いことなどにより、農地の集約が進まず、経営耕地の減少に歯止めがかからない状況となっている。また、高齢化等による担い手不足が深刻であり、若い世代を中心とした担い手の確保対策が急務となっている。林業においても、林業就業者の高齢化や不在地主の増加など、森林管理の担い手が減少している。原木市場の価格が不安定であること等による生産・販売環境にも課題があり、持続可能な林業を推進する必要がある。商工観光においては、道の駅天空の郷さんさん等の観光施設、西日本最高峰の石鎚山等の観光資源等により、交流人口は増加しているが、老朽化している遊休施設の処分の検討を行う必要がある。
- 安らぎとふれあいのある社会づくり(保健・福祉)
本町の高齢化率は50%をうかがうところまで進行し、独居の高齢者や高齢者世帯が増えている。地区によっては日常的にお互いを支え合うことが難しくなっており、高齢者の広域的な支援体制を構築する必要がある。地域医療についても、広域な町域面積と高齢化に対応した医療提供の維持には、医師の地域偏在、診療科目、医療スタッフの不足など多くの課題がある。
- 次代へつなぐ人づくり、里づくり(教育・文化)
公共交通関連主要施設は整備されているものの、校区が非常に広いため、遠距離通学の児童、生徒が多く、公共交通機関の利用による通学費の負担や自転車、徒歩通学における交通安全、不審者対策などの課題を抱えている。教育内容については、国際化、ICT教育の浸透、ふるさとを愛する心の醸成など、多様な学習の充実が求められる。また、上流高校の存続に向けた魅力向上に取り組み必要がある。
- 自然豊かで安心・安全な暮らしづくり(環境・定住・社会資本)
進学、就職を転機とした若者世代の人口流出が顕著であり、若者世代の流出に伴い出生数も少ない状況にある。今後もさらに人口減少が進み、様々な分野で担い手不足が深刻化することが懸念される。公共交通機関の便数が少ないほか、幹線道路を中心とした路線にとどまっていることから、地域交通の確保、車両の運転が困難な方の生活利便の向上を進める必要がある。
- みんなが参加する地域のつながりづくり(行財政)
社会情勢や国の政策動向が目まぐるしく変化しており、最適な行政サービスを提供するために必要な職員の資向上や事務の効率化に取り組み必要がある。急激な人口減少の中で地方への交付税の減額が予想され、自主財源が乏しい本町においては、町が所有する公共施設等の老朽化に対する対策も必要である。人口減少と高齢化により地域自治は弱体化し、従来の活動が困難な自治会も現れ始めるなど、本町の住民自治は危うい状況にあることから、地域運営協議会の組織化を推進し、住民や関係団体が地域課題の解決に取り組み、持続可能なまちづくりを行う必要がある。

(地域づくりの事業等)

- 自主防災組織の育成推進
自助、共助の力を身につけるため「自分たちの地域は、自分で守る」を基本に、地域ぐるみで防災意識を高め、大規模災害時における協力体制を確立し、救助活動や初期消火の対応、要配慮者の安否確認や長期避難所運営を担うため、自主防災組織の育成を推進することにより災害に強いまちづくりに取り組んでいる。
- 新規就農者育成
久万農業公園研修センターにおいて、新規就農者の確保、育成を行い、担い手の定着を促進する。
- 林業成長産業化地域指定
平成29年に、林野庁の「林業成長産業化地域」の指定を受け、地域の特色である優良かつ豊富な森林資源を生かして、素材生産から製品販売までを一元化して取り扱う「総合商社天空の森」の創設等、林業の成長産業化に取り組んでいる。
- 各地域における地域運営協議会の設立
集落を結びつける途切れない確かなコミュニティの構築を実現するため、町内各地域において地域運営協議会の組織化を図り、住民同士のつながりを強化し、地域の課題に住民自らが自立的に向き合い、解決に向けて努力することで、持続可能なまちづくりに取り組む。

(令和 6. 4. 1現在)

